

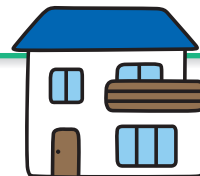
手順 3 保険金額と免責金額

保険の対象に応じて保険金額と免責金額をお決めください。

保険金額の設定方法

建物と家財について、保険金額をお決めください。

※地震保険の保険金額の設定方法は、取扱いが異なります。詳しくは10ページをご参照ください。

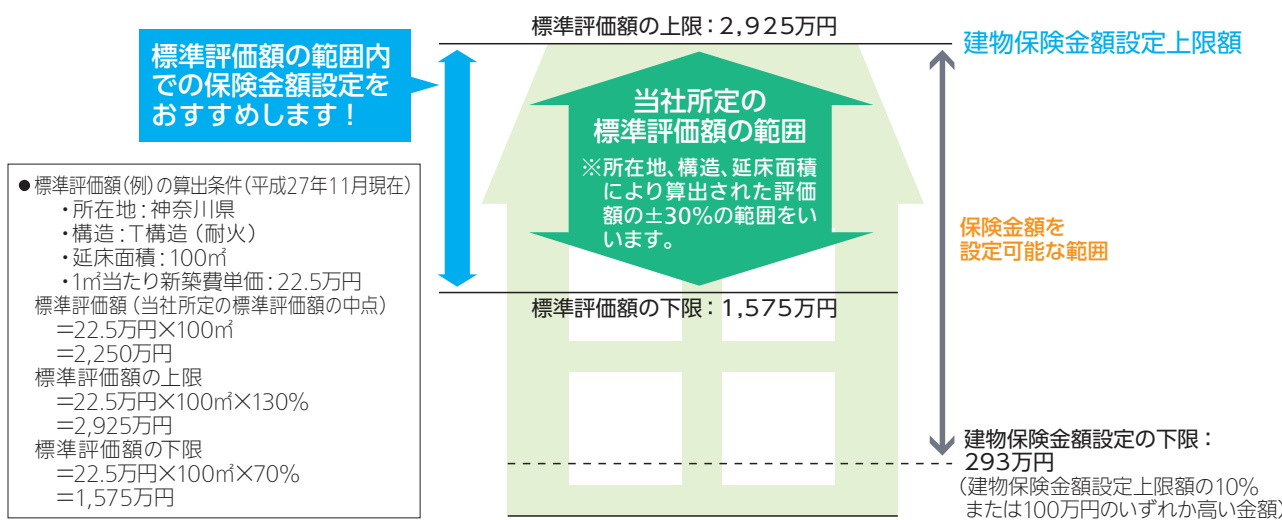


(1) 建物（建物保険金額設定上限額方式）

建物保険金額は当社が定める建物の標準評価額の上限（建物保険金額設定上限額）^(注)以下、かつ、100万円以上1万円単位でお決めください。ただし、建物保険金額設定上限額の10%が下限となります。

(注) 標準評価額の上限を超える評価額（個別評価額）の根拠をご提示いただいた場合には、建物保険金額設定上限額を、その個別評価額に変更することも可能です。なお、その個別評価額が標準評価額の上限の1.5倍を超える場合には、根拠資料（不動産売買契約書（写）や工事請負契約書（写）等）のご提出が必要となります。

【建物の標準評価額と建物保険金額の設定について（例）】



●建物保険金額の設定につきましては、次の点にご注意ください。

- ①標準評価額は、再調達価額を基準として算出されます。事故が発生した場合に十分な補償を受けられるよう、標準評価額の範囲内でのご契約をおすすめします。
- ②建物の基礎、門・塀・垣、付属建物(延床面積が66㎡未満の物置・車庫等)は、ご契約時に含めない旨のお申出がない限り、保険の対象に含まれます。保険の対象に含めない場合は、標準評価額が変更となります(マンション戸室の場合を除きます)。
- ③同一の建物について複数のご契約をされると、ご契約を1つにした場合に比べ、保険料が割高となることがあります。

(2) 家財(家財(長期用)特約をセットする場合)

特約家財保険金額は再調達価額以下、かつ、50万円以上1万円単位でお決めください。

(ご参考)標準世帯における家財の評価額(再調達価額)の目安(平成27年11月現在)

下記の評価額を参考にして、保険金額を設定してください。

世帯主の年齢	家族構成	夫婦のみ	夫婦+子供(18才未満)1人	夫婦+子供(18才未満)2人
27才以下		500万円	590万円	680万円
28才~32才		590万円	680万円	770万円
33才~37才		780万円	870万円	960万円
38才~42才		1,070万円	1,160万円	1,250万円
43才~47才		1,370万円	1,460万円	1,550万円
48才以上		1,440万円	1,560万円 ^(注1)	1,650万円 ^(注2)

(注1)夫婦以外に、18才以上の方が1人の場合

(注2)夫婦以外に、18才以上の方が1人と18才未満の子供が1人の場合

※同一の家財について複数のご契約をされると、ご契約を1つにした場合に比べ、保険料が割高となることがありますのでご注意ください。